

静岡県漁業協同組合連合会
1043 静岡市追手町 9-18
15.5.23 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 02年漁業就業者 244,000人へ減少

農水省が公表した02年の漁業就業労働調査結果によると、漁業就業者数は243,940人(前年比3%減)で30年前の半分、10年前に比べ10万人減少し、この内男性の65歳以上が34.9%(同1.4%増)で高齢化が進んでいることが明らかになりました。

就業者数の内男性は203,450人(同3%減)で83%を占め、女性は40,490人(同5%減)。男性は65歳以上を除くすべての年齢階層で前年より減少し、特に沿岸漁業の自営と沖合漁業の雇われが減った15~24歳が前年比12%と減少しました。

漁業従事別では沿岸が208,540人(同3%減)、沖合・遠洋35,390人(同7%減)でした。漁業世帯数は178,440世帯(同3%減)で、うち個人漁業経営体が130,140世帯(同3%減)、雇われなどの漁業従事者世帯が48,300世帯(同4%減)でした。全漁業世帯に占める割合は、個人経営体のうち専業が25.3%(同0.5%増)、兼業では自営漁業の主が26.6%(同1%増)、自営漁業の従は21%(同1.2%減)と下がりました。

漁業世帯員数は世帯数の減少に伴い636,440人(同4%減)で、男女ともに4%減少し、年齢別では15~24歳の減少率が最も高く9%減少しました。

今回は自営漁業に従事した女性の労働状況も調査され、ふだんの主な状態は「自営業者が主」が過半数を占め、陸上作業従事内容は、生産準備などと生産物の出荷作業で約8割を占めています。

2. 水産動物養殖における水産医薬品の適正使用について県が聞き取り調査

長崎県のトラフグ養殖漁家において、寄生虫駆除対策として未承認医薬品の使用が同県の調査で判明し、約166万尾のトラフグに出荷停止が要請されていることは既にご承知のことと思います。

現在国会においては、ホルマリン、マラカイトグリーンなどの未承認医薬品の使用禁止や罰則規程の強化を含む、薬事法の一部改正案が提出されており、併せて水産用医薬品使用規制関係省令の改正が予定されていることから、県では養殖漁家へ水産用医薬品の適正使用を再度徹底する目的で、未承認医薬品総点検を次のとおり実施することとなりましたのでお知らせいたします。

調査対象者 = 給餌養殖漁協及び養殖漁家 調査方法 = 聞き取り調査及びその他の補完調査 調査時期 = 平成15年5月中旬~6月上旬 調査員 = 水産資源室、水産試験場、及び栽培漁業センターの各職員

なお、現在水産業界では国民の食料産業として安心・安全な食材を安定して供給すべく努力をしているところでありますので、水産医薬品の適正使用をお願いします。

3. 平成14年の海洋汚染 発生件数516件

海上保安庁のまとめによると、平成14年1月~12月に確認された海洋汚染の発生件数は516件で、昨年より30件増加しました。このデータは海上保安庁の船艇や航空機などが発

見したもののうち、海洋環境の保全上、一定以上の影響を及ぼす恐れがある汚染について取りまとめたものです。

このうち、油による汚染は358件、油以外の汚染は110件、赤潮による汚染は48件となっています。油による汚染を海域別にみると東京湾が68件で最も多く、次いで瀬戸内海63件、九州沿岸45件と続いています。

排出源別には船舶からのものが231件と約65%を占め、その他陸上からのものが24件、排出源不明が101件となり、原因別には取扱い不注意によるものが99件で最も多く、次いで海難86件、故意35件となっています。

油以外の汚染では廃棄物が最も多く79件で次いで工場廃水12件、有害液体物質8件となり、排出源別には陸上からが59件、船舶からが26件で取り締まりの強化で件数は減少傾向にありますが、監視の目を逃れるため手口がますます巧妙になっています。

また、赤潮の海域別確認件数は伊勢湾が14件(前年4件)と大幅に増加しました。

4. 中島音楽事務所 漁船海難遺児募金に協力

中島音楽事務所(焼津市)では、例年開催している海上安全チャリティー歌謡ショーを去る5月18日、焼津市民文化会館において開催し本会も後援する中で、中島音楽学院の生徒ほか当日の来場者からの暖かい募金が寄せられました。

歌謡ショーは、午前9時40分から始まり終了後、中島音楽事務所の代表者である中島久雄代表から観衆の見守る中、ステージ上において本会河尻指導部長に募金箱(136,194円)が手渡されました。ここに心からお礼申し上げます。

5. 新館図書紹介「藻場の海藻と造成技術」

成山堂書店より、コンブ、ホンダワラ類などの繁殖、生態的特性を明らかにし、効率的な藻場造成技術や管理手法を示した、「藻場の海藻と造成技術」が発行されました。

本書では、移植ブロックによる藻場造成や、ホンダワラ類の成長・成熟の季節性と環境要因、コンブ養殖技術、アラメ・カジメ類の藻場造成技術、藻場現存量変化の計算などを解説しています。なお、購入申込については次のとおりお願いします。

定価4,200(税込) 送料390円 A5版・288ページ 申込み・問合せ 成山堂書店 TEL03-3357-5861

6. 諸会議・日程(5月27日(火)~6月9日(月))

5月29日(木) 県近海かつお・まぐろ漁業者協会 = 通常総会 (御前崎サンホテル)

6月3日(火) 県漁連・県信漁連 = 地区別組合長会議 (下田市漁協)

6月6日(金) 県漁連 = 第2回理事会 (県水産会館)

= お知らせ =

水産情報速報版第1号が昭和51年5月15日に刊行して以来、長年にわたりB4版を踏襲してきましたが、時代の流れに合わせ今号より紙面をA4版とし、活字も12ポイントに変更することにいたしました。

突然の変更で大変恐縮ですが、今後も水産に関する諸情報をより迅速に提供できるように心掛けていきますので、引き続きご愛読のほどよろしく願いするとともに、皆さまからのホットな情報を広くお待ちしております。